

.....

地区別ワークショップ 概要

.....

I. 趣旨・目的

本市の「まち。ひと・しごと創生人口ビジョン」等を踏まえ、市内 10 地区ごとにテーマを設定して、地区別ワークショップを開催した。

II. 開催概要

	日時	開催場所	テーマ
湊地区	平成 27 年 7 月 8 日 (水) 19:00～21:00	湊公民館	湊地区の活性化～「地域ブランドの創出」
大戸地区	平成 27 年 7 月 9 日 (木) 14:00～16:00	大戸公民館	若者世代の定住、定着～若者に魅力ある地域づくり～
河東地区	平成 27 年 8 月 5 日 (水) 18:30～20:00	河東公民館 2 階大ホール	魅力ある河東地区を育てる (農業、スポーツ)
門田地区	平成 27 年 8 月 19 日 (水) 18:30～20:00	南公民館	地域活動のあり方 ～地域活性化、支え合いの仕組みづくり～
一箕地区	平成 27 年 9 月 3 日 (木) 18:30～20:30	一箕公民館	教育。文化 ～一箕地区の宝を次世代へ引き継ぐ
東山地区	平成 27 年 9 月 29 日 (火) 13 時 30 分～16 時	東公民館	安全・安心なまちづくり ～地域の防犯、防災～
本町地区	平成 27 年 10 月 14 日 (水) 18 時 30 分～20 時 30 分	小館稻荷神社	商店街活性化 ～商店街と医療・福祉がつながるまちづくり
行仁地区	第 1 回：平成 27 年 10 月 24 日 (土) 9 時 30 分～12:00 第 2 回：平成 27 年 11 月 1 日 (日) 9 時 30 分～12:00 (※全 2 回)	行仁小学校体育館	公共施設を考える～行仁小学校の改築～ (児童・PTA・地区等)
北会津地区	平成 27 年 11 月 16 日 (月) 18 時 30 分～20 時 30 分	北会津公民館	北会津地区における農業・農村の活性化
会津若松 I C 周辺地区	平成 27 年 11 月 20 日 (金) 19 時～	北公民館	地区の少子化対策～子育て環境の向上～

Ⅲ. 地区別ワークショップの議論について

①湊地区

地区	日時	場所	テーマ	参加人数
湊地区	平成 27 年 7 月 8 日（水） 19：00～21：00	湊公民館	「地域ブランドの創出」	7 名

湊地区は、農業が盛んであり、またグリーンツーリズムを実施するなど、地域おこしの気風がある地区ということから、上記テーマを採用した。

参加人数は7名1グループと、小規模なワークショップとなったが、知り合い同士の方が多かったこともあり、なごやかかつ活発に議論が進んだ。年齢層の幅も広く、女性も複数参加されたことから、小規模ながら、多様かつ多くの意見が出され、当初想定していなかった「地域ブランドの創出の方法や売り出し方」にまで、議論が拡大した。

1. 議事

(1) 開会（企画調整課 佐藤課長）

(2) 配布資料説明

① 新総合計画について（企画調整課 佐藤課長）

・地区別ワークショップでは、地区ごとにテーマを設定し、話し合いをする。地域の方から出されたアイデアを新総合計画に盛り込みたいと考えている。

② 会津若松市・地区別の概況、「地域ブランドの創出」について解説（日本経済研究所 小原）

(3) ワークショップ（WS）（進行役：日本経済研究所 小原）



<ワークショップの手順>

- ① 「わがまち（湊地区）の良い点・特徴的な点」について、各自意見を出す。
- ② 意見を類似する内容ごとにグループ分けし、グループごとにキーワードを設定する。
- ③ キーワードを踏まえて、「まちのキャッチフレーズ」や「まちの特徴を活かした農産品・商品などのキャッチフレーズ」を作成する。
- ④ キャッチフレーズを踏まえて、地域ブランド創出、売り出し方について協議する。



WS の成果① 設定されたキーワード

- 「わがまち（湊地区）の良い点・特徴的な点」に関するキーワードを設定

<自然に関するキーワード>

猪苗代湖、磐梯山、背あぶり山、雪、動植物、四季、水、空気

<歴史に関するキーワード>

関白平、秀吉、義家、物部守屋、遺跡、板碑、民話

<農業、農産品に関するキーワード>

田畑、野菜、米、そば、もち、どぶろく

<住民に関するキーワード>

素朴で純粋な子供達、人情深い、連帯感

WS の成果② キャッチフレーズ

- キーワードを踏まえて、「まちのキャッチフレーズ」や「まちの特徴を活かした農産品・商品などのキャッチフレーズ」を作成

「磐梯山も猪苗代湖も一番よく見えるみなと」、
「猪苗代湖と磐梯山のすばらしい眺望」 など

WS の成果③ 地域ブランドの創出の方法や売り出し方

- キャッチフレーズを踏まえて、地域ブランド創出、売り出し方について協議

- ・ 磐梯山と猪苗代湖の眺望は唯一無二。湊のPRをする際、必ず「猪苗代湖と磐梯山の美しく見える町、湊」のように同じフレーズを使う。
- ・ 温泉を掘る、酒米を植えて酒を造る（既にツアー有）などの体験を売る。
- ・ 宿泊と食事（豆腐餅、そば、野菜天ぷら…）を絡めたツアーを作る。
- ・ スポーツをするのに適した気候なので、レクリエーション公園をもっと活用する。
- ・ 子どもたちの受け入れ。
- ・ 雪の活用。
- ・ 本格的サイクリングコース、ウォーキングコースを作る。
- ・ 田舎レストランを作る。
- ・ トライアスロン、マラソン大会など（既にあるが、湊地区は発着地でない。）

WSの成果④ 地域ブランドの創出の方法や売り出し方についての課題

● キャッチフレーズを踏まえて、地域ブランド創出、売り出し方の課題について協議

- ・ 湊地区には、自然、食、歴史、人情があり、よいところがたくさんあるが、他の土地にも自然や食べ物など似たようなものがある。何か1つの商品で売り込んでいくのは難しい。かつては首都圏の物産展などに出店したこともあるが、外に売り込みに行くよりも、湊地区に来てもらったほうがよさを実感してもらえと思う。
- ・ 地域の良さは、地元で生活する者には、当たり前すぎて認識できない。
- ・ グリーンツーリズムに取り組んでいるが、下火になってしまった。無償でサービスをしてしまうと、1、2年は良いが、継続できない。メリットが必要。
- ・ 地域にお金が落ちる仕組みが必要。
- ・ 地域内に、宿泊施設が少ない。
- ・ 地域活性化には、地域の人々の協力なしには何もできない。湊地区では、公民館だよりでのPRや、たけのこ山の取組などを実施しており、土台は出来つつあるが、より一層の地域内でのPRが必要。
- ・ 分散して暮らすお年寄りの理解が必要。
- ・ 若者は、連帯感はあるが、組織を好まない傾向にある。会津では年功序列がはっきりしているため、高齢の方が一喝すると、若者が発言できないこともある。地

(4) 全体講評（進行役：日本経済研究所 小原）

湊地区には、売り出すことのできる資源が豊富にあることが確認できた。
また、会津若松市内の他の地域とは異なる特徴があることも確認できた。
地域内にある資源（個々の歴史・文化、自然、商品、住民の特性等）は独自性があり、素晴らしいものが多くあるが、それぞれの持つインパクトは、市内外の他地域と比べ、特に大きなものではないと感ぜられる。
よって、地域ブランドを創出していくためには、1つの商品などで勝負するというよりは、総合力で売り込むと良いのではないかと。
また、地域外にPRする方法としては、外に（単品を）売り込みに行くよりも、外から来てもらって方がよさそうである。
そのためには、ホームページの改善など、地域外の人に、地域の売りをインパクトある形で伝えられる情報発信方法の工夫も必要だろうし、議論の中でも出ていたように、受入体制の整備、地元の理解促進・共通認識の醸成が重要であろう。
湊地区では、地区活性化協議会が組織され、地区で地域ブランドを創出していく土壌がある。ぜひ継続して地域活性化に取り組んでいただきたい。

2. 事務連絡（佐藤課長）

3. 閉会（佐藤課長）

わがまち（湊地区）の良い点・特徴的な点



キャッチフレーズ



②大戸地区

地区	日時	場所	テーマ	参加人数
大戸地区	平成 27 年 7 月 9 日 (木) 14 : 00 ~ 16 : 00	大戸公民館	「若年層の定着」	10 名

大戸地区は、深刻な高齢化、人材不足に直面していることから、上記テーマを採用した。

参加人数は 10 名、全体説明後、2 グループに分かれて作業を行った。いずれのグループにも市職員及び日本経済研究所職員が入り、進行支援を実施した。知り合い同士の方が多かったこともあり、なごやかかつ活発に議論が進んだ。

1. 議事

(1) 開会 (企画調整課 佐藤課長)

(2) 配布資料説明

① 新総合計画について (企画調整課 佐藤課長)

・地区別ワークショップでは、地区ごとにテーマを設定し、話し合いをする。地域の方から出されたアイデアを新総合計画に盛り込みたいと考えている。



② 会津若松市・地区別の概況について、若年層の捉え方について解説 (日本経済研究所 小原)

(3) ワークショップ (WS) (進行役：日本経済研究所 小原)

<ワークショップの手順>

- ① 「わがまち (大戸地区) の良いところ・特徴的なところ」について、各自意見を出す。
- ② 意見を類似する内容ごとにグループ分けし、グループごとにキーワードを設定する。
- ③ キーワードを踏まえて、大戸地区の良いところを踏まえて「若年層にまちの良いところをアピールするためのキャッチフレーズ」を作成。
- ④ キャッチフレーズを踏まえて、「若年層にまちの良いところをアピールする方法」を議論。



会津若松市 HP より

WSの成果① 設定されたキーワード

- 「わがまちのよいところ」に関するキーワードを設定

<Aグループ>

水、ラーメン、そば、夏涼しい、ウォーキング、山、小鳥、動物、温泉、鉄道、遺跡、窯、大名行列の道、人間味、集落ごとのつながり

<Bグループ>

人、女性、自然が豊か、災害が少ない、食べ物、立地、歴史

WSの成果② キャッチフレーズ

- キーワードを踏まえて、「若年層にまちの良いところをアピールするためのキャッチフレーズ」を作成

<Aグループ>

感性が豊かな安心して子育てができるまち

<Bグループ>

近所の人々が人生の先生/いつも居場所があるまち/地域で育む

WSの成果③ 若年層にまちの良いところをアピールする方法

- キャッチフレーズを踏まえて、若年層にまちの良いところをアピールする方法について協議

アピール方法「地区外の人に来てもらう」

- ・ 駅に貸自転車を置き、サイクリングロードを利用してラーメン等を食べるツアー
- ・ 温泉に泊って大戸から喜多方までサイクリングとラーメン紀行
- ・ 感性が豊かな安心して子育てができるまちをPR

アピール方法「地区から出て行った人に戻ってきてもらう、地区外の人に来てもらう」

- ・ 空き家に自分たちの子どもに住んでもらう。
- ・ 大学生などに親と一緒に暮らすとロスがないことをPR
- ・ 50代、60代が面白いことをする。
- ・ 食べられる植物を植える。
- ・ 芝桜、桜を植える。

(4) 全体講評 (日本経済研究所 小原)

大戸地区には、自然、温泉、鉄道、人など良いところがたくさんあることが確認できた。「若年層の定着」というのは非常に難しいテーマである。「若年層の定着」というテーマの裏には、まちの良さを若年層が認識すると同時に、具体的に大戸地区に住むメリットを感じる必要がある。現在、定着していないのであれば、具体的な対策を打っていかなければならない。魅力的な資源を活かしつつ、魅力的なまちづくりを地域の方々自身で行っていく必要がある。

対策は小さなことから構わない。例えば、「小さな子供を遊ばせる公園がない」という声があったが、公園を新たに設置するのは、費用がかかる。一方で、小学校の校庭には遊具がある。小学校の子ども数は非常に少なくなっているので、土日など、幼児に開放してもらおうよう、交渉してみてもどうか。鍵の管理を保護者が行うことにより、校庭を他者に開放できている事例はたくさんあると思われる。

このように、課題があるならば、どのようにすればよいか、まちの良いところをどうPRしていくか、自ら具体的な方法を考えていかなければならない。

本日のアイデアも活かして、引き続き地区で話し合いをしていただければと思う。

2. 事務連絡 (佐藤課長)

3. 閉会 (佐藤課長)

わがまち（一箕地区）の良い点・特徴的な点⇒キャッチフレーズ⇒取組みについて



③河東地区

地区	日時	場所	テーマ	参加人数
河東地区	平成 27 年 8 月 5 日（水） 18：00～20：00	河東公民館 2 階大ホール	「魅力ある河東地区を育てる（農業、スポーツ等）」	15 名

河東地区は、稲作や園芸作物の生産が盛んであり、かつ地域における人のつながりが強く、地区内交流のため多くのスポーツ活動が行われていることから、上記テーマを採用した。

ワークショップ開始時点では、地域の良いところがなかなか浮かばないようであったが、河東地区の魅力について意見交換を重ねるうちに、わがまちに対する誇りと自信が多くの参加者に認識された。

1. 議事

(1) 開会（企画調整課 邊見副主幹）

(2) 配布資料説明

③ 新総合計画について（企画調整課 邊見副主幹）

・地区別ワークショップでは、地区ごとにテーマを設定し、話し合いをする。地域の方から出されたアイデアを新総合計画に盛り込みたいと考えている。

④ 会津若松市・地区別の概況について解説（日本経済研究所 小原）

(3) ワークショップ（WS）（進行役：日本経済研究所 小原）



<ワークショップの手順>

- ① 「わがまち（河東地区）の良い点・特徴的な点」について、各自意見を出す。
- ② 意見を類似する内容ごとにグループ分けし、グループごとにキーワードを設定する。
- ③ キーワードを踏まえて、「まちのキャッチフレーズ」や「よその人に街の魅力をアピールするためのキャッチフレーズ」を作成する。
- ④ キャッチフレーズを踏まえて、街の魅力を更に高めるための方法について議論する。



會津藩校 日新館（会津若松観光ナビ）

延命寺地藏堂（会津若松観光ナビ）

WSの成果① 設定されたキーワード

- 「わがまち（河東地区）の良い点・特徴的な点」に関するキーワードを設定

<スポーツに関するキーワード>

町内全員参加のスポーツ大会、スポーツ・文化活動が盛ん

<食に関するキーワード>

美味しい米と水、どぶろく、強清水のそば

<自然・歴史に関するキーワード>

自然が美しい、四季がはっきりしている、文化財が多い、歴史のある町、皆鶴姫お祭

<住民に関するキーワード>

地域のみんなが協力的、人情豊か、人とのつながりが強い、つながり、高齢者が元気、

地域の活動が盛んである、安心な町

WSの成果② キャッチフレーズ

- キーワードを踏まえて、「まちのキャッチフレーズ」や「よその人に街の魅力をアピールするためのキャッチフレーズ」を作成

「人よし食よし 歴史と観光 会津の要（へそ）元気な河東」

「スポーツや文化活動で元気いっぱい！！長寿の町、河東」

「歴史ある自然豊かな町」

「交通の要衝地としてこれから発展する町」

「米と野菜が美味しい町」

「地域の交流 人情味豊かな町」

WS の成果③ 街の魅力を更に高めるための方法

キャッチフレーズを踏まえて、街の魅力を更に高めるための方法について協議

- ・ 地区外の人に来てもらい、様々なことを体験してもらう（農業体験、農業を知らない子ども達の体験など）。そのための受入れ体制の整備。
- ・ 若い人の参加を促す。
- ・ 個人でも楽しく参加できるようにする。
- ・ 健康の大切さを伝える。
- ・ 行事が多く、みんながつながっていることをアピール。
- ・ 市役所機能を移転させて河東に再び脚光を浴びさせる。
- ・ 我が地域の魅力を認識する、情報と共に魅力を発信する。
- ・ 個人発信に加え、公民館や公共と連携した発信を行う。
- ・ 地域で協力して河東マップを作成し、魅力を発信する。
- ・ 地域の協力体制を活かし、個々のおすすめスポットを紹介する。

(4) 全体講評（日本経済研究所 小原）

河東地区は、地域住民が参加するスポーツ大会を多く開催することにより、地域でコミュニケーションをとっているというユニークな地域である。こうしたスポーツ活動を、健康寿命の延長に活かすといったことに活用すれば、別の観点からも発展の可能性を感じられる施策である。

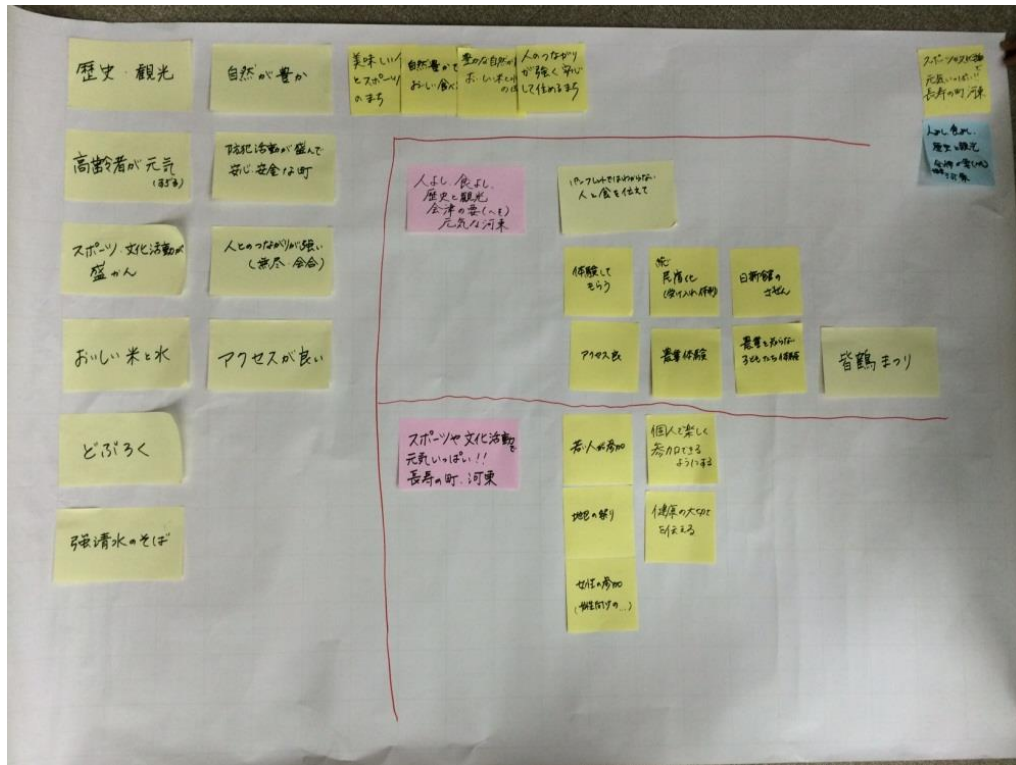
市内からのアクセスの良さが病院の建設に貢献しており、今後も産業・福祉の発展の可能性が考えられる町である。

どのグループにおいても、市内各地域へのアクセスがよく、自然や食が豊かである等、住みやすく魅力的な地域であることは十分に認識できた。こうした魅力を活かすことにより、地域内の人口流出を抑制し、地域を訪れた人々が新たに定住するような動きが生まれるとよいだろう。一方、河東地区は内外への情報発信が不足し、本来の魅力が十分に知られていない可能性が高い。今後は、河東地区の魅力を上手に発信すると同時に、それぞれの魅力がつながり連携するような動きがあれば、産業の活性化や定住人口、交流人口の増加につながると思われる。

2. 事務連絡 邊見副主幹)

3. 閉会（邊見副主幹）

わがまち（河東地区）の良い点・特徴的な点



キャッチフレーズ



④門田地区

地区	日時	場所	テーマ	参加人数
門田地区	平成27年8月19日(水) 18:30~20:30	南公民館	「地域活動のあり方～地域活性化、支え合いの仕組みづくり」	17名

門田地区は、住宅、農業、企業・工場の立地のほか、新しい総合運動公園もあり、バラエティに富んだ地区である。当地区では、様々な団体による地域活動が盛んであることから、上記データを採用した。

参加人数は17名、全体説明後、2グループに分かれて作業をした。各グループに市職員（企画調整課職員2名、こども保育課職員1名）、日本経済研究所職員が入り、進行支援を実施した。

1. 議事

(1) 開会（企画調整課 佐藤課長）

(2) 配布資料説明

⑤ 新総合計画について（企画調整課 佐藤課長）

・地区別ワークショップでは、地区ごとにテーマを設定し、話し合いをする。地域の方から出されたアイデアを新総合計画に盛り込みたいと考えている。

⑥ 会津若松市・地区別の概況について解説
（日本経済研究所 小原）

(3) ワークショップ（WS）（進行役：日本経済研究所 小原）



<ワークショップの手順>

- ① 「わがまち（門田地区）の魅力・特徴的なところ」について、各自意見を出す。
- ② 意見を類似する内容ごとにグループ分けし、グループごとにキーワードを設定する。
- ③ キーワードを踏まえて、門田地区の良いところを踏まえて「“望ましいまちの姿”をイメージしたキャッチフレーズ」を作成。
- ④ キャッチフレーズを踏まえて、「住民の力でどんなことができるか」を議論。



会津若松市 HP より

WS の成果① 設定されたキーワード

- 「わがまちの良いところ」に関するキーワードを設定

< Aグループ >

産業が盛ん、おいしい食べ物、地区活動、環境・自然、景観、歴史・文化、人情、便利、スポーツ

< Bグループ >

総合運動公園、生活環境がよい、自然が豊か、歴史建造物・お祭り・建造物、各種団体の活動が盛ん・連携が強い、人と人とのつながりが強い、学校が多い、工業団地がある、人口が多い

- キーワードを踏まえて、「“望ましいまちの姿”をイメージしたキャッチフレーズ」を作成

<Aグループ>

- ・スポーツと緑のまち
- ・住みやすくあたたかい町
- ・食と文化が見える安心な町
- ・自然が豊か人間が豊かなまち門田
- ・各種団体（区長会）の連携強化による〇〇
- ・自然がはばたく元気なまち
- ・歴・食・住がそろうまち
- ・豊かな自然と住民パワーで明るい街
- ・自然が豊かで人情が厚く暮らしやすい

<Bグループ>

- ・地域活動を継続 絆でつながる町
- ・人情があるから自由に言える
- ・各種団体の活動で住みよい町づくりをしている
- ・高齢者対策及び支援、協力が沢山居る
- ・地域活動が活発で環境の良い地区
- ・地区活動で生まれる人と人との結び付き
- ・人とのつながりがつくるあたたかな住みよい町
- ・人情のある町
- ・歴史・文化があふれ他人にやさしく人の力が輝く町
- ・食・スポーツ・自然が豊かな住みよい町
- ・歴史・自然を守り産業を育てるまち
- ・歴史のある町
- ・自然と便利が共存の町
- ・四季と遊んで四季を味わい心と体がほっこりする町
- ・自然が豊かな町
- ・特産品が多い地区

- キャッチフレーズを踏まえて、住民の力でどんなことができるかについて協議

<Aグループ>

- ・ 門田地区の中でも、人が減少している地区の団体活動が難しくなりつつあるため、各地区の独自性を活かしつつ、地区間の連携を強化する。
- ・ 歴史ポイントをめぐるウォークラリーの実施を継続する。
- ・ 各種団体における共助と協調が必要、各種団体へ加入しやすいように支援を行う。また、各種団体の連携を強化し、全地域に広げたい。

<Bグループ>

- ・ 門田地区は、食・スポーツ・自然が豊かな住みよい町である。消防団が30代を中心に100名を超えるなど各種団体の活動が活発で人情のあるまちであり他地区に負けない良さがある。
- ・ 地域活動を継続して絆でつながる町として将来の世代に継いでいくために、スポーツイベント、祭り、文化祭の取組を継続していく。

(4) 全体講評 (日本経済研究所 小原)

門田地区は、自然が豊かであること、生活環境が良いこと(大型SCがある、小学校が多い、災害が少ない等)、見不知柿や人参などの特産品があること、工業団地があること、そして地域活動が活発であり、人と人とのつながりが強いなど、魅力が多数あることが再確認された。

望ましいまちの姿を実現するために、Bグループでは、門田地区の良さを再認識した上で、今後も、祭り、運動会、文化祭といった地域活動を継続し発展させていくことが確認された。Aグループでは、良いところと同時に、赤十字の活動で女性を募集しても参加してもらえないなどの課題もあるとの指摘があり、課題解決のための具体的な対応策を考えていただいた。

非常に難しいテーマに対し、短時間で有意義な意見を出していただけたと思う。多くの地域団体による各種の地域活動の実施により、災害時やイベント時の迅速かつ一定規模以上の炊き出し能力がある等、他の地域にはない実力がある。

一方、こうした地域活動についても、地元出身と周辺から流入した新興世帯との温度差や、地区によっては人口減により活動維持が困難といった課題もあがっていた。各種団体や各地域間の連携を強化し、地区全体の活動を発展させていただくことにより、より魅力的な地区になると思われる。

2. 事務連絡 (佐藤課長)

3. 閉会 (佐藤課長)

⑤一箕地区

地区	日時	場所	テーマ	参加人数
一箕地区	平成 27 年 9 月 3 日 (木) 18:30~20:30	一箕公民館	「教育・文化～一箕地区 の宝を次世代に引き継ぐ ～」	18 名

一箕地区は、会津大学、會津大学短期大学部という高等教育機関が立地しているほか、一箕小学校及び一箕中学校においては、合唱、合奏が盛んであり、また石部桜や飯盛山といった文化資源も豊富であることから、教育・文化の特色が強い地区として、上記テーマを採用した。

参加人数は 18 名、全体説明後、3 グループに分かれて作業をした。3 グループのうち、1 グループに市職員及び公民館長が入り、2 グループに日本経済研究所職員が入り、進行支援を実施した。知り合い同士の方が多かったこともあり、なごやかかつ活発に議論が進んだ。年齢層の幅も広く、女性も複数参加されたことから、多様かつ多くの意見が出された。

1. 議事

(1) 開会 (企画調整課 邊見副主幹)

(2) 配布資料説明

⑦ 新総合計画について (企画調整課 邊見副主幹)

・地区別ワークショップでは、地区ごとにテーマを設定し、話し合いをする。地域の方から出されたアイデアを新総合計画に盛り込みたいと考えている。

⑧ 会津若松市・地区別の概況について解説 (日本経済研究所 小原)

(3) ワークショップ (WS) (進行役: 日本経済研究所 小原)



<ワークショップの手順>

- ① 「教育・文化」の視点からみた、わがまち (一箕地区) の良いところ・特徴的なところについて、各自意見を出す。
- ② 意見を類似する内容ごとにグループ分けし、グループごとにキーワードを設定する。
- ③ キーワードを踏まえて、一箕地区の良いところを踏まえてキャッチフレーズを作成する。
- ④ キャッチフレーズを踏まえて、教育・文化面における良い面や自慢できる点を次世代に引き継ぐ



会津若松市 HP より

WSの成果① 設定されたキーワード

- 「「教育・文化」の視点からみた、まちのよいところ」に関するキーワードを設定

<Aグループ>

歴史と文化が多い、山と平地の両方があり自然も多い、幼稚園から大学まで教育機関が揃っている、スーパーや病院があり生活が便利である、水や地元野菜がおいしい、地域のつながりがあって住民の仲が良い、特色ある学校がいくつもある

<Bグループ>

歴史・史跡が多い、祭りや催事が多い、高齢者が住みやすい、街並みがきれい、子どもに歴史を継承している、先進的な教育機関がある。

<Cグループ>

史跡が多い、自然が豊かである、人にやさしい、教育環境が充実している、安全で安心なまちである。

WSの成果② キャッチフレーズ

- キーワードを踏まえて、「まちのキャッチフレーズ」を作成

<Aグループ>

歴史と文化がある町、自然が豊かで暮らしやすい、明るく楽しくつながりのある町内、言葉と音楽があふれる学校

<Bグループ>

地域と共に歴史とともに、教育の先端を行く町

<Cグループ>

住みたくなる街、一箕

WSの成果③ 次世代に引き継ぐため、課題を克服するための取り組みについて

● キャッチフレーズを踏まえて、こうした町を次世代に引き継ぐための取り組みについて協議

- ・ 現在、一箕中学校が部活動で成果を出している俳句や合唱を、学校全体で取り組むこと、さらには、卒業生などを中心に地域全体で取り組むことで、人とのつながりが強固になっていくと考える。
- ・ 先端的な教育機関である会津大学があるが、卒業生が当地に残れる雇用を作り出したり、起業を支援したりする必要がある。
- ・ 地元で豊富に採れるおいしいお米や野菜などを使った料理の提供などにより、観光客の増加を目指す。
- ・ 地元住民の生活の良さを活かして、おもてなしの街づくりを目指す。
- ・ 様々な活動を実施していた教師が異動してしまうとその活動ができなくなってしまうことがあるので、教師の異動があってもなお優れた活動が継続されるように、他の先生を育てることも必要。また、先生以外の指導者を招聘することも必要。
- ・ 一箕地区の歴史を生徒に学ばせるに当たり、先生自身が歴史を勉強することも必要。

(4) 全体講評（日本経済研究所 小原）

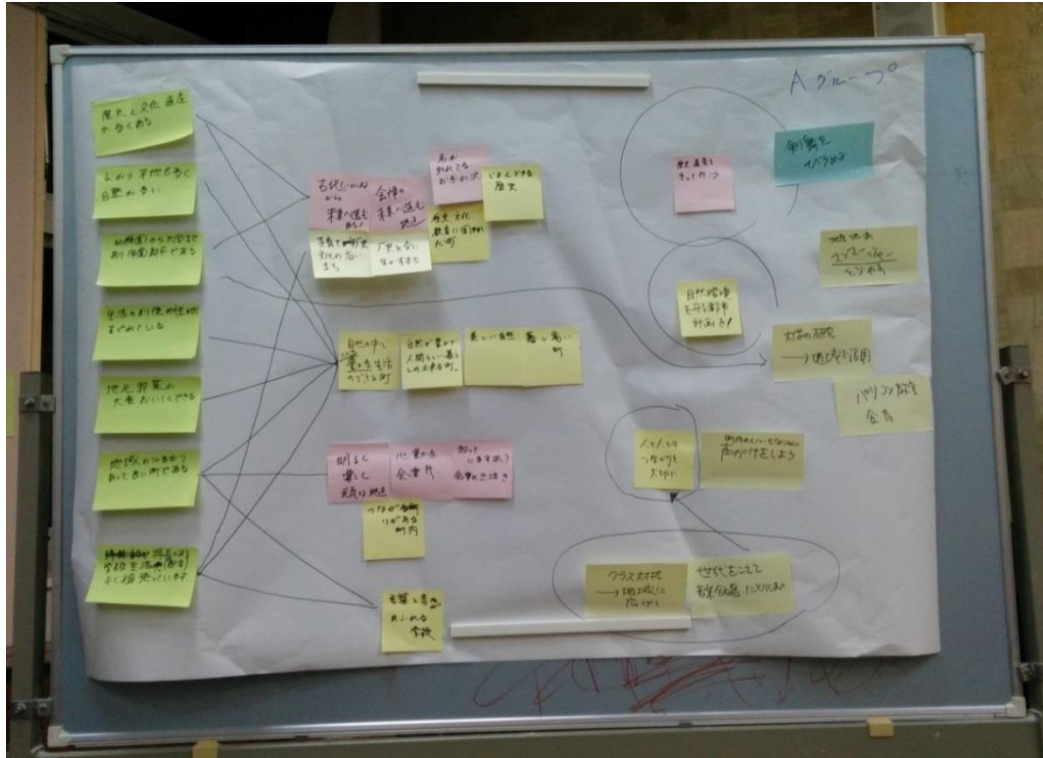
ワークショップ開始当初は、「悪いところしか思い浮かばない」という参加者の方が何人もいたが、時間が経つにつれ、実にたくさんの素晴らしい点が一箕地区にあることがわかった。一箕地区は、中心市街地に近いことから、人口減も比較的抑えられており、商業施設や病院等もそろった便利なまちである。同時に、古代から幕末に至る、全国区の歴史遺産を持つ「歴史のまち・伝統のまち」でありながら、会津大学のIT教育や市内唯一の中高一貫校もある「最先端教育のまち」であるというギャップが、この地区の大きな魅力・独自性と感じられた。

一方、課題を克服するための取り組みの検討においては、素晴らしい歴史遺産、あたたかい人間性、おいしいお米や野菜といった地域資源がありながら、観光客が伸び悩んでいる理由として、「根底には、現実を変えたがらない保守的な文化があり、それを変えていく必要があるのではないか」という、深い議論にも及んだ。短い時間ではあったが、今回のワークショップでここまでの議論ができたことは大変素晴らしかったと思う。

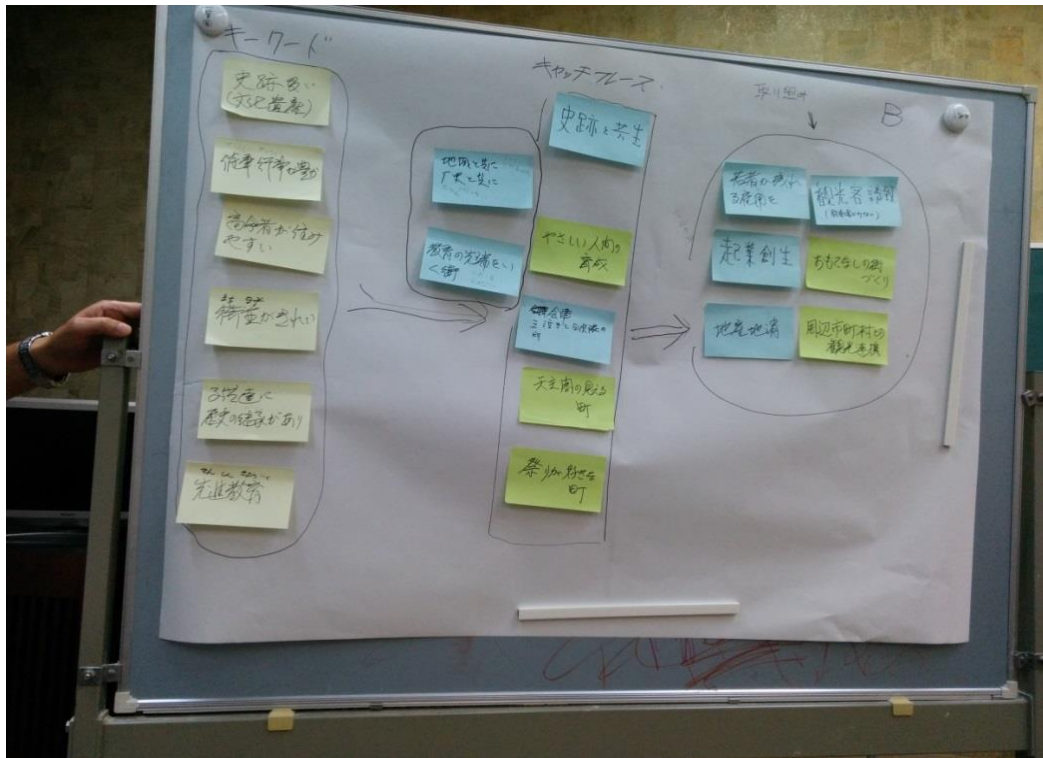
2. 事務連絡（邊見副主幹）

3. 閉会（邊見副主幹）

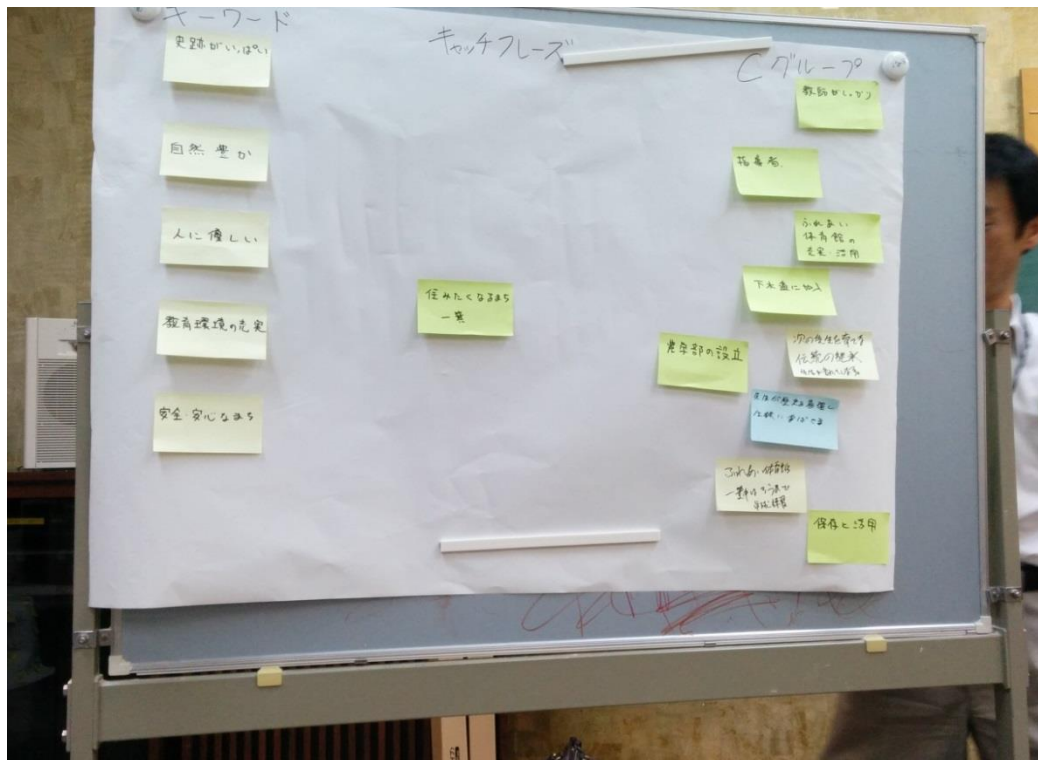
わがまち（一箕地区）の良い点・特徴的な点⇒キャッチフレーズ⇒取組みについて
 <Aグループ>



<Bグループ>



<Cグループ>



⑥東山地区

地区	日時	場所	テーマ	参加人数
東山地区	平成 27 年 9 月 29 日 (火) 13:30~16:00	東公民館	「安全・安心なまちづく り～地域の防災・防犯」	15 名

東山地区は、地区内の慶山地域が土砂崩れの危険性があるとして警戒区域に指定されており、近年は、住民による自主防災組織も立ち上がっている。また、市の防災計画策定の際、市民ワークショップを開催し、その成果は防災計画に反映されている。こうしたことから上記テーマを採用した。

参加人数は 15 名、全体説明後、2 グループに分かれて作業をした。A グループに公民館長、B グループに公民館主事、両グループに日本経済研究所職員が参加し、進行支援を実施した。

1. 議事

(1) 開会 (企画調整課 馬場副主幹)

(2) 配布資料説明

⑨ 新総合計画について (企画調整課 佐藤課長)

・地区別ワークショップでは、地区ごとにテーマを設定し、話し合いをする。地域の方から出されたアイデアを新総合計画に盛り込みたいと考えている。

⑩ 会津若松市・地区別の概況について解説 (日本経済研究所 小原)

(3) ワークショップ (WS) (進行役: 日本経済研究所 小原)



<ワークショップの手順>

- ① 「地域の防災・防犯」の視点からみたわがまち (東山地区) の課題について、各自意見を出す。
- ② 意見を類似する内容ごとにグループ分けし、グループごとにキーワードを設定する。
- ③ キーワードを踏まえて、具体的にどのような取組みを行えば課題を解決できるか話し合いを行う。



会津若松市 HP より

WS の成果① 設定されたキーワード

- 「地域の防災・防犯」の視点からみたわがまちの課題に関するキーワードを設定

< Aグループ >

防災：災害時発生のお知らせ方、避難経路、避難所の特定、道路事業、高齢者のフォロー、浸水対策、除雪、排雪の対策

防犯：空き家対策、送り付け商法への対策、高齢者の防犯意識、子どもの遊び場の減少、防犯灯・防犯カメラが少ない、人通りの少ない道路がある。

両方：アパート住民が把握できない、人間関係の希薄化、防災・防犯への教育・情報・

< Bグループ >

防災：災害への不安、避難場所・避難所、組織作り、予算、要支援者への支援、防災への意識

防犯：組織、予算、意識、要支援者への支援

WS の成果② キーワード（課題）に対する取り組みの検討

- キーワードを踏まえて、具体的にどのような取り組みを行えば課題を解決できるか。

< Aグループ >

取組体制：災害発生時の伝達方法の組織づくり、連絡網の活用（定期的な更新）、町内会にある組織を活用する。

方策：防災無線の設置、聞こえない場所の解消、細分化された防災計画を作る、世帯情報の開示を区長レベルまで広げてほしい、芋煮会等行事の際に防災防犯の話をからめてみる、懇親会の開催、見守り隊の発展（登下校だけでなく遊び場でも）、町内で楽しみながらパトロールを継続する、企業警察等とタイアップして防犯カメラモデル事業、危険箇所の優先順位づけ

< Bグループ >

取組体制：自主防災組織を作る、現状把握、日頃からの人間関係

方策：国、市等の備品等を借りる、市（県）との協働、出前講座、防災訓練、防災新聞（情報）、避難所・避難場所について近くの施設や民間施設の活用、備蓄

● 成果②について全体発表

<Aグループ>

- ・ 災害発生時の知らせ方が課題である。ソフト面では、災害発生時の伝達方法の組織づくりや連絡網の活用を考えた。ハード面では、防災無線の設置などが必要である。
- ・ また、予め避難経路や避難所の特定、東山地区の狭い道路事情を考慮した対応策（別ルートの確立や、孤立した場合の備蓄等の検討）が必要であり、そのためには町内会や区長制度といった従前からの組織を活用しながら、新たな対策検討組織を立ち上げるなどが必要ではないか。
- ・ 東山地区は、土砂崩れがあった場合、小学校や公民館は避難所として使えない場合がある。災害の種類ごとに避難所を変える必要がある。
- ・ 防災・防犯両方に関係する課題としてアパートの住人が把握できない、人間関係の希薄化、防災・防犯への教育・情報・訓練がある。普段から、近隣とコミュニケーションをとることが必要であり、芋煮会の活用や懇親会の開催などを方策として考えた。子どもが参加する行事には、親も参加することが多いので、子どもを巻き込みながらやっていきたい。
- ・ 防犯については、空き家対策が課題である。一見防犯と関係ないが、球技ができるような子どもの遊び場の減少により、子どもが危険な場所に行くことになるのではないかという意見も出た。防犯対策としては、従前からの見守り隊を発展させることにより、球技ができるような遊び場を確保していくことや、ジョギングやウォーキングなど仲間と楽しみながらパトロールを継続すること、危険な個所の優先順位づけをすることが大切と考えた。

<Bグループ>

- ・ 東山地区の中でも地域によって課題は異なるが、今回は特に土砂災害を中心に議論した。防災対策には膨大なお金がかかることから、予算という課題がある。市に予算をとる覚悟があるのかという意見があった。これに対しては、自助・共助の考え方でまず地域でできることをやるべきではないかとの意見があった。アパート住人や高齢者など要支援者の支援も課題である。また、避難場所・避難所が土砂災害警戒区域内にあるという問題もある。
- ・ 取り組み体制としては、慶山地区の自主防災組織の取り組みについて話を聞き、自主防災組織を作るといふことがあるとの意見が出た。日頃からの人間関係が重

(4) 全体講評（日本経済研究所 小原）

地域の防災・防犯について、非常に多くの課題が抽出され、地域の防災・防犯意識の高さを感じた。

方策はハード面、ソフト面の両面があり、いずれも重要だが、ハードの整備についてはコストや時間がかかることもある。ソフトの取り組みでどのように補うかを考えなければならない。

実施体制については、行政が実施すべきこともあるが、地域の防災対策については、地域でなければわからないこと・できないことが多い。「自助」「共助」の考え方に基づく地域での取り組みが非常に重要である。慶山地区のように自主防災組織を組織することも一つの方法であり、参考になると思う。

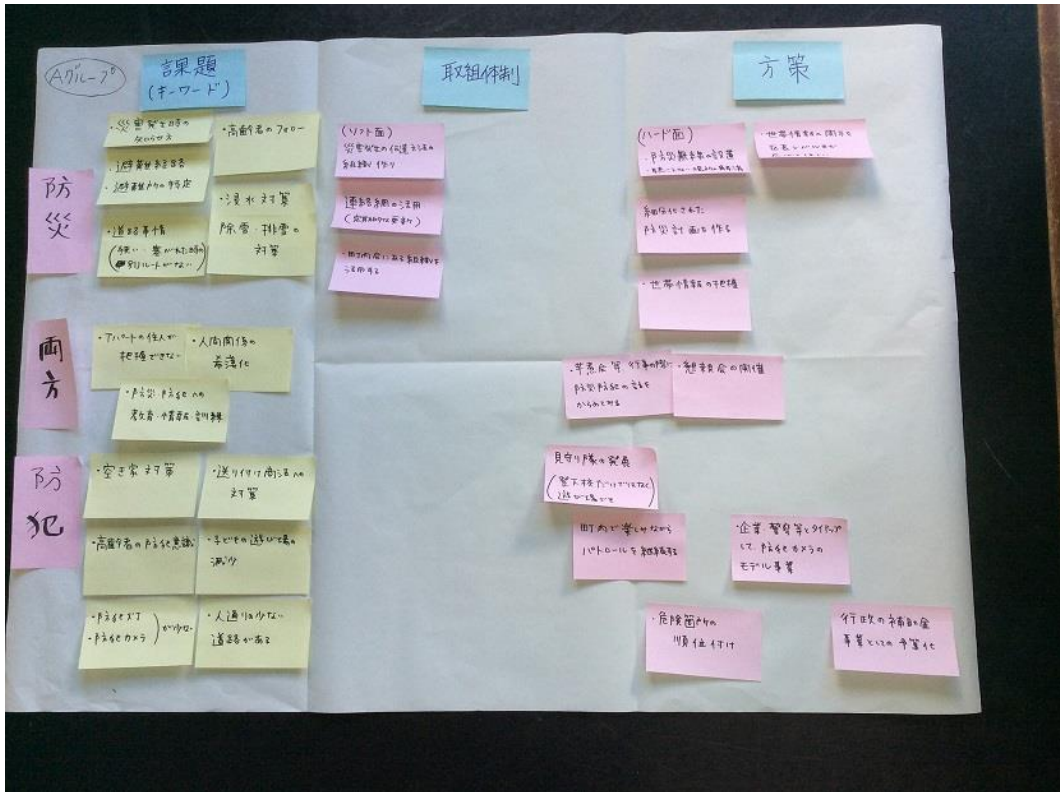
一方で、組織を立ち上げて取り組みを行うことは大変なことであり、負担も大きい。自治会などの既存の組織を活用して話し合いを深め、スケジュールを立てて、できることから段階的に始めてはどうか。防災・防犯の取り組みは、継続することが何より重要である。楽しみながら継続できる工夫を検討するとよいのではないかと思う。

2. 事務連絡（馬場副主幹）

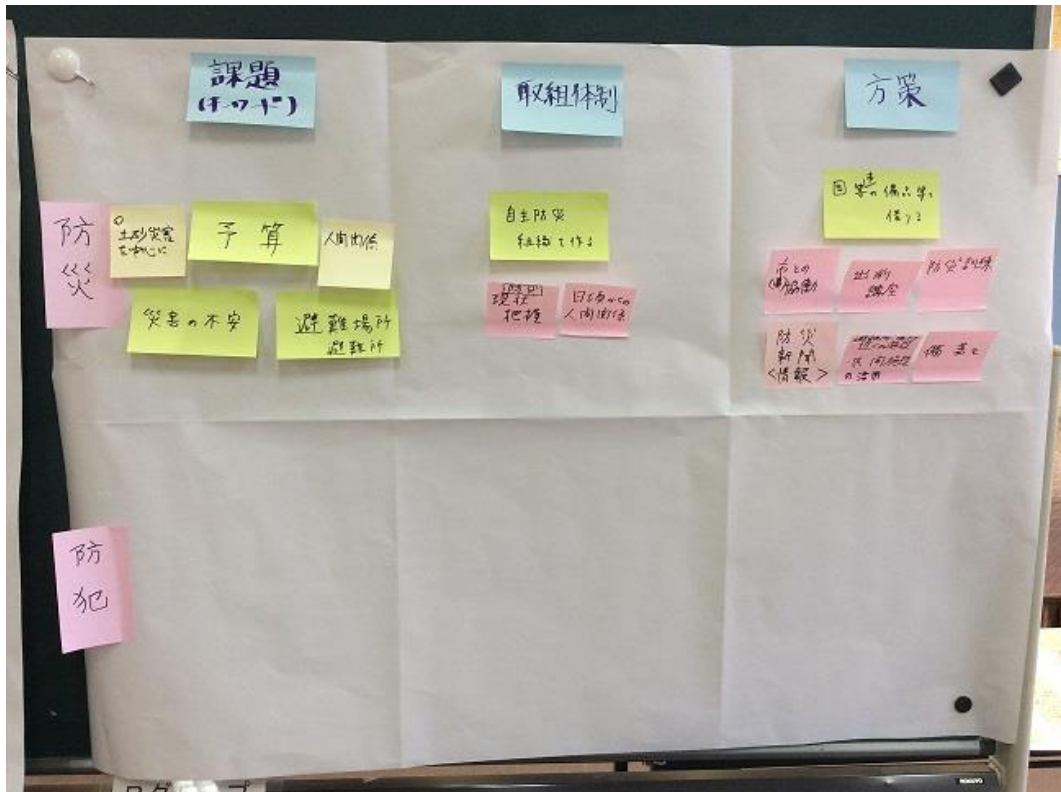
3. 閉会（馬場副主幹）

地域の防災・防犯の視点からみたわがまちの課題⇒取組体制⇒方策

<Aグループ>



<Bグループ>



⑦本町地区

地区	日時	場所	テーマ	参加人数
本町地区	平成 27 年 10 月 14 日（水） 18：30～20：30	小館稲荷 神社	「商店街と医療、福祉が つながるまちづくり」	20 名

本町地区は、100 年以上続く店も多い歴史ある商店街地区である。近年、賑わいが低下しているが、近隣の竹田病院との連携による商店街の活性化が検討されていることから、上記テーマを採用した。

当日は、竹田病院の方から、商店街との連携の可能性について発表があり、議論は大いに盛り上がった。

1. 議事

(1) 開会（企画調整課 邊見副主幹）

(2) 配布資料説明

① 新総合計画について（企画調整課 邊見副主幹）

・地区別ワークショップでは、地区ごとにテーマを設定し、話し合いをする。地域の方から出されたアイデアを新総合計画に盛り込みたいと考えている。

② 会津若松市・地区別の概況、「商店街と医療、福祉がつながるまちづくり」について解説
（日本経済研究所 小原）

(3) ワークショップ（WS）（進行役：日本経済研究所 小原）



<ワークショップの手順>

- ① 「本町商店街と竹田病院や福祉関係施設との連携」の視点から、課題について、各自意見を出す。
- ② 意見を類似する内容ごとにグループ分けし、グループごとにキーワード（課題）を設定する。
- ③ キーワードを踏まえて、具体的にどのような取り組みを行えば課題が解決するか、協議する。



空き店舗の活性化（会津若松市ホームページ） 諏訪神社（会津物語ホームページ）

WS の成果① 設定されたキーワード

- 「本町商店街と竹田病院や福祉関係施設との連携」の視点から、課題となるキーワードを設定

<アクセス・立地に関するキーワード>

道路整備不足、駐車場不足（使いやすい駐車場がない）、雪対策

<商店街に関するキーワード>

空き店舗が多い、休める場所がない、まちのことを知らない人が多い、コミュニティスペースの不足、情報発信不足、イベントのにぎわい不足（集客力のあるイベントがない）、休日に閉まる店が多い、魅力あるまちづくり、人材不足

<病院・福祉に関するキーワード>

病院から遠い、歩道が歩きにくく高齢者の散歩には危険、病院とのコラボ

WS の成果② キーワード（課題）に対する取組みの検討

- キーワードを踏まえて、具体的にどのような取組みを行えば課題が解決するか協議
 - ・ 本町だよりの作成や Facebook を使った PR、商店街の人が交代で FM ラジオ放送を実施する。
 - ・ 病院開催予定の日曜日での出店調査を行う。
 - ・ 安全な道の整備を道路管理者に要望する。
 - ・ 駐車場スペースはあるものの、わかりにくいため、駐車場マップやサインボードを作る／駐車場の共有を行うため、各商店にアンケートを行い、貸し出す仕組みを検討
 - ・ トイレマップを作成する／市民が集まれる場所を作る／各商店に協力してもらい、トイレについても貸出システムを検討する。
 - ・ 空き店舗活用に関する啓蒙活動を行う。
 - ・ フラッグやオブジェ等を用いて商店街の一体感を醸成する／かえるグッズやかえるの町としての雰囲気作りを行う。
 - ・ 各店がマナーを守り、雪対策を行う。
 - ・ イベントは、竹田病院と協働することで賑わい不足を解消する。
 - ・ 病院や福祉施設間の情報共有を行う／市への要望として、行政サービスを本町で受けられるようにする。
 - ・ 健康面重視の町になる／ウェルネスタウンや健康をテーマにした、まちのイメージ作戦を立てる／竹田病院にまちの保健所として機能してもらおう／病院と商店のアクセス改善（東邦銀行横など）
 - ・ 本町から諏訪神社に至る小道の整備を行う。

設定テーマは難しかったと思うが、まずは、まちづくり・商店街活性化に取り組んだ上で、病院との連携を検討するという点がどのグループにも共通していた。

ハードに関して、取り組まなければならないこともあるが、ソフトで出来ることもたくさんあることがわかったと思う。例えば、駐車場が少ないという声がある一方で、現在ある駐車場をシェアするという仕組みづくりで対応することも考えられる。こうした仕組みを作るに当たっては、商店街内の連携が必要である。商店街内の連携は難しいことではあるが、連携がないとソフト面での対策を立てることは難しい。

何かに取り組む際には、担い手が商店街の方だけでは負担が大きいため、できる人を巻き込んでいくことで商店街活性化に向けた取り組みが行われるべきである。担い手を増やし、そこが連携していくことがポイントとなる。

2. 事務連絡（佐藤課長）

3. 閉会（佐藤課長）

